

# 名古屋港の将来計画(長期構想・中期経営計画/港湾計画)

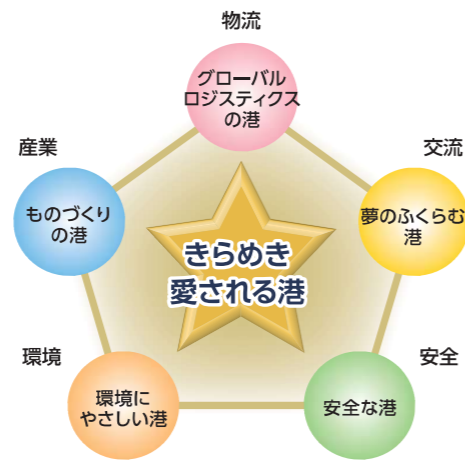
## ●長期構想「名古屋港の針路」

名古屋港の更なる飛躍に向け、概ね20年先を見据えた将来目標とその展開方向を示す、長期構想「名古屋港の針路」を2007年(平成19年)3月に策定しました。

### ■将来目標「きらめき 愛される港 ～世界★日本★地域～」

ものづくり中部を世界と結ぶ先進的で信頼される港湾機能と、産業の新時代を支える高度なものづくり基盤を形成することにより、物流と生産のステージで世界にきらめく港をめざす。

また、快適な港湾空間や魅力ある観光資源を提供し、安全で安心な暮らしを守り、かけがえのない自然環境と共生することにより、人々から愛される港をめざす。



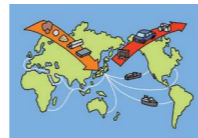
### ■基本姿勢「いつも挑戦!」

これからも、「中部地域の活力を支え、わが国の持続的な発展に貢献する」「人びとの豊かな暮らしを支える」ために、常に挑戦する港であり続ける。

### ■分野別将来イメージ

将来目標をめざすにあたり、5つの分野(物流・産業・交流・環境・安全)から将来イメージを設定するとともに、実現に向けた基本目標を示している。

**物流分野** **グローバルロジスティクスの港**  
世界で活躍するものづくり産業や人びとの豊かな暮らしを支える、グローバルロジスティクスにおける中枢拠点の港をめざす。  
(基本目標) 国際・国内海上輸送機能の強化、ロジスティクスハブ機能の強化



**産業分野** **ものづくりの港**  
高い国際競争力を持つ、新たなものづくり基盤の港をめざす。  
(基本目標) 産業の高度化・新展開・創出

**交流分野** **夢のふくらむ港**  
港に集うあらゆる人びとに親しまれる、夢のふくらむ港をめざす。  
(基本目標) うるおいと魅力のある港湾空間の形成



**環境分野** **環境にやさしい港**  
さまざまな面で環境に配慮する、環境にやさしい港をめざす。  
(基本目標) 良好な港湾環境の形成



**安全分野** **安全な港**  
安全な暮らしや安定した産業活動に貢献する、安全な港をめざす。  
(基本目標) 安全性・信頼性・危機管理の向上



## ●中期経営計画

「名古屋港管理組合中期経営計画2023」(計画期間令和元年度から令和5年度)は、長期構想「名古屋港の針路」で示した将来目標や分野別将来イメージを実現していくため、具体的な施策や事務事業を総合的・体系的に取りまとめた計画であり、特に重点的に取り組む施策を「重点施策」として位置付けています。

また、概算事業費と本組合の想定される財源と照合することで、実効性を高めた計画としています。

## ●名古屋港港湾計画

港湾計画は、港湾管理者が港湾法に基づき定める法定計画で、港湾の開発、利用及び保全等の方針及び目標年次における港湾の能力とそれに対応する港湾施設の規模と配置、港湾環境の整備と保全等、その他基本的な事項を定めた港湾整備のマスタープランです。

現在の港湾計画は平成30年代後半を目標年次として、平成27年12月に改訂したものです。

目標年次における取扱貨物量を、外貿1億7,130万トン(うちコンテナ取扱個数372万TEU)、内貿7,540万トン、合計2億4,660万トンと定めています。(端数処理上、合計が一致しない。)

## ●港湾計画の方針

### 物流・産業

#### <コンテナ・完成自動車・バルク取扱機能の強化と安全で円滑な航路・道路体系の構築>

我が国の基幹産業である自動車関連産業に加えて、次世代産業である航空機産業など中部地域に集積するものづくり産業の国際競争力強化と、背後に暮らす人々の生活の質の向上を支えるため、物流機能の更なる強化を図ります。そして、輸出入貨物の更なる増加や貿易額の拡大を図ることにより、我が国経済・産業の活性化と富の創出に貢献します。

- 1) コンテナ取扱機能の強化
- 2) 完成自動車取扱機能の強化
- 3) バルク貨物取扱機能の強化
- 4) 安全で円滑な航路・道路体系の構築

### 安全・安心

#### <安全・安心な港湾の構築>

地震・津波・高潮などの大規模災害に対して、背後住民の生命・財産や背後地域の産業活動を守るため、ハード・ソフト一体となった防災・減災対策を進めます。そのため、平時から防災訓練の実施や関係機関との連携強化、港湾BCPの実効性の向上に取り組みます。また、被災時において、緊急物資などの円滑な輸送を確保し、地域経済などへの影響を最小限にとどめ、早期に復旧・復興できるよう、耐震強化岸壁の適正配置など災害に強い港づくりを図ります。

### 交流・環境

#### <魅力ある交流空間と良好な港湾環境の形成>

地域の活性化や交流を促進するため、旅客船ふ頭やフェリーふ頭などを適正に配置することにより、クルーズ船の大型化や寄港増加などに対応できる、より魅力ある交流空間の形成を図ります。身近で親しまれる港湾環境の創出とともに、生物多様性に配慮し、港湾活動に伴う環境負荷軽減を図るため、緑地の拡充や、港内に残された干潟の保全などにより、良好な港湾環境の形成を図ります。また、小型船舶を適正に収容できる施設の拡充などにより、秩序ある港湾空間の形成を図ります。

なお、港湾を取り巻く状況や社会経済情勢の変化を注視しつつ、必要に応じて港湾計画の一部を見直すなど、適切に対応していきます。